

藤岡北中 3賞を獲得



学校奨励賞をはじめとして三つの賞に輝いた藤岡北中。右から折茂教諭、中村校長、飯野教頭

中村校長は「受賞を励みに今後も生徒や保護者の心に届く『通信』づくりに努力していきたい」と話している。同財団の酒井純司専務理事は「藤岡北中に負けないよう、各地の学校関係者は通信活動を頑張ってほしい」とより「おだし」などを発行した飯野聰教頭、新人賞は学級通信「STORY (ストーリー)」の折茂真美教諭がそれぞれ輝いた。同校は学年通信や学級通信、部活動通信を経験5年以内の「新人賞」、学校単位を対象盛んに発行しており、

群馬のあるべき

県と高絹士

学生の視点から本県の文化について語つてもらおうと、県文化振興課は7日、高崎経済地域政策学部で「群馬県文化基本条例(仮称)」の制定に向けた意見交換会を開いた。参加した同学部の学生22人から、本県文化のあるべき姿について意見が寄せられた。

友岡邦之准教授が司会を担当。「文化」「群

全国の中高校の各種通信を対象にしたコンクール「第7回プリントコミュニケーションひろば」で、藤岡市の北中（中村裕子校長）が学校奨励賞をはじめとした三つの賞を獲得した。主催する理想教育財団（東京都港区）は「極めて珍しい。学校全体で各種通信活動が盛んな証し」と高く評価している。

全国小中高・通信コンクール

コンクールは、学校に良いコミュニケーション環境づくりを目指す保護者、地域とのよき連携を目的に2004年に始まり、今回は全国から470点（うち本県26点）の応募があった。北中が受賞したのは優秀、優良の両賞に次ぐ「ひろば賞」、教諭経験5年以内の「新人賞」、学校単位を対象

とした「学校奨励賞」。ひろば賞は、職員室だより「おだし」などを発行した飯野聰教頭、新人賞は学級通信「STORY (ストーリー)」の折茂真美教諭がそれぞれ輝いた。

高幸子（太田中央小）▽学校奨励賞 高崎大地域政策学部で「群馬県文化基本条例(仮称)」の制定に向けた意見交換会を開いた。参加した同学部の学生22人から、本県文化のあるべき姿について意見が寄せられた。